

要約 京都の経営経済動向調査結果 (2011. 4. 8)

-2011年1～3月期実績と2011年4～6月期及び2011年7～9月期予想-

京都商工会議所
担当：中小企業経営相談センター
電話 (075) 212-6467

円高、原材料価格上昇など企業収益を圧迫 ～中小企業中心に業況は低調に推移～

概要

業況は、ハイテクや輸出関連の製造業など大企業を中心に回復が続いているものの、受注・売上の不振や製・商品・サービスの価格安に加えて、円高や原材料価格の上昇などから、大企業、中小企業ともに企業収益へのマイナス圧力が強まっている。とりわけ回復への足取りに遅れが見られる中小企業では、先行き減益への懸念が目立ち、東北関東大震災による企業活動や業績への影響など新たな不安材料が生じるなかで、先行きは不透明感が増している。

(注) 2月下旬から3月上旬※にかけ同調査を実施し、604社中492社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店を持つ企業)。また1～3月期のBSI値は、2010年10～12月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。
※2011年2月21日～3月4日を調査期間に実施。よって3月11日に発生した東北関東大震災による景気・業況への影響は今回の調査結果には直接反映されていない。

I 国内景気動向

1～3月期のBSI値は、▲3.9(前期実績▲7.5)と下降したものの、マイナス幅を縮小した。今後の4～6月期、7～9月期はほぼ横ばいを予想し、景況感は足踏み基調で推移する見通しとなっている。

II 企業経営動向

自社業況(総合判断) 1～3月期のBSI値は、▲9.3(前期実績0.7)と再び下降し、持ち直し基調をやや弱めた。今後の4～6月期は▲2.3、続く7～9月期は▲6.3と、業況は水面下の一進一退で推移する見通しとなっている。

※自社業況(総合判断)は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

1. 生産・売上高、工事施工高 1～3月期のBSI値は、前期プラスとなった反動や季節的な要因もあって▲10.1と再び減少した。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期は、観光シーズンの影響を受ける運輸・倉庫業や食料品関係の製造業や卸売業、サービス業の旅館・ホテルや小売業などで増加する一方、全体ではほぼ横ばいを予想する。続く7～9月期は、製造業の電気機械、一般機械、精密機械、窯業・土石、化学・ゴムとサービス業の情報・事業を除くすべての業種で減少を予想するなど、全体的に精彩を欠く見通しとなっている。

2. 製・商品・サービス・請負価格 1～3月期のBSI値は、▲5.7と下降傾向で推移した。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期は建設業や不動産業、製造業の鉄鋼、電気機械、窯業・土石、非鉄など多くの業種で下降を見通し、続く7～9月期は卸売業の繊維卸、機械金属卸や製造業の木材・木製品、染色、化学・ゴムなどでは上昇するものの、運輸・倉庫業、建設業、小売業をはじめ、製造業の鉄鋼、繊維製品、精密機械やサービス業の旅館・ホテルなど多くの業種で下降を続ける見通しとなっている。

3. 経常利益 1～3月期のBSI値は、▲12.7と再び減益となった企業が増加した。今後の見通しについて規模別にみると、4～6月期は大企業、中小企業とも減益を予想するものの、7～9月期は大企業では幾分増益、中小企業ではさらに減益を予想し、規模間で差が見られる。
4. 所定外労働時間 1～3月期のBSI値は、▲5.1と再び減少した。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期はサービス業の旅館・ホテルや運輸・倉庫業、不動産業、卸売業の食料品卸や製造業の食料品、一般機械、化学・ゴムなどで増加する一方、建設業や製造業の染色、その他製造業、木材・木製品、窯業・土石などで減少することから全体では横ばいを予想し、続く7～9月期は、建設業、不動産業をはじめサービス業の旅館・ホテルや製造業の鉄鋼、染色、その他製造業など多くの業種で減少する見通しとなっている。
5. 製・商品在庫 1～3月期の製・商品在庫は、「適正」とする企業が77.8%と概ね適正水準で推移したが、一部に過剰感が見られた。業種別に見ると、繊維卸や繊維製造など繊維関係と、製造業の窯業・土石などで過剰感が見られた。今後は、繊維関係の一部でやや過剰感が残るものの、全体としてはやわらぎ、概ね適正水準で推移する見通しとなっている。
6. 資金繰り 1～3月期のBSI値は、▲6.3と悪化傾向で推移した。今後の見通しについて規模別にみると、大企業では7～9月期にかけてやや改善を予想するものの、中小企業では悪化への懸念が残ることから改善の足取りは重い。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

「受注・売上げ不振」(64.0%)が前回に続き第1位になった。第2位は「過当競争」(33.5%)、第3位に「製・商品(請負)価格安」(31.1%)、第4位に「原材(燃)料高」(26.4%)、第5位に「人件費負担増大」(14.6%)が続いた。「原材(燃)料高」は前回から回答率と順位を上げている。

Ⅳ 企業経営の今後の方向(年1回3月時点調査で実施)

前回調査に続き「人材の開発・育成」(前回40.1%→今回45.1%)が第1位で高いポイントを示した。第2位に前回4位の「製品商品・新技術の研究・開発」(33.9%→36.0%)が挙げられた。また、「省力化・合理化の徹底」(34.4%→33.7%)が、前回に続き第3位となった。

Ⅴ 設備投資計画(通常は年1回6月時点調査で実施。今回は特別調査として3月時点調査で実施)

2011年度の設備投資計画は「増額」とする企業15.0%、「減額」とする企業21.8%でBSI値は▲3.4(前年度6月時点▲3.4)となり、減額傾向で推移した。

業種別 小売業(▲15.8)、その他サービス業(▲15.7)、運輸・倉庫業(▲14.6)、食料品製造(▲12.5)、繊維製造(▲9.4)などの業種を中心に減額が続く一方、一般機械(10.5)、化学・ゴム(6.3)、旅館・ホテル(5.9)、精密機械(3.6)、繊維卸(3.3)など一部の業種では増額となっている。

規模別 大企業はBSI値2.0(前年度6月時点2.1)と増額傾向で推移したものの、中小企業は▲5.6(前年度6月時点▲5.8)と減額が続く、規模間で差が見られる。

国内景気	実績			予想					
	2011年1～3月期			2011年4～6月期			2011年7～9月期		
	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降
総計	▲3.9	17.1	24.9	0.3	21.7	21.1	0.4	18.9	18.2
規模別									
大企業	1.8	18.7	15.1	6.2	29.0	16.6	5.5	22.5	11.6
中小企業	▲6.2	16.5	28.8	▲2.0	18.9	22.8	▲1.7	17.5	20.9
業種別									
製造業	▲2.8	18.4	23.9	0.4	20.5	19.7	3.2	22.5	16.2
卸売業	4.2	26.7	18.4	6.7	26.7	13.3	▲0.8	16.7	18.3
小売業	▲2.0	16.0	20.0	▲4.0	20.0	28.0	▲2.0	12.0	16.0
建設業	▲9.4	9.4	28.1	▲9.4	15.6	34.4	▲7.9	12.5	28.2
不動産業	▲2.7	15.8	21.1	7.9	21.1	5.3	5.3	21.1	10.5
運輸・倉庫業	▲10.0	8.0	28.0	4.0	20.0	12.0	▲2.0	12.0	16.0
サービス業	▲10.8	12.2	33.8	▲2.7	26.1	31.5	▲4.8	15.1	24.6

自社業況 (総合判断)	実績			予想					
	2011年1～3月期			2011年4～6月期			2011年7～9月期		
	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降
総計	▲9.3	20.5	39.1	▲2.3	24.1	28.7	▲6.3	16.0	28.5
規模別									
大企業	0.0	24.5	24.5	0.0	27.2	27.2	4.4	23.5	14.7
中小企業	▲13.0	19.1	45.0	▲3.2	22.8	29.2	▲10.4	13.0	33.8
業種別									
製造業	▲9.3	21.3	39.8	▲4.2	21.8	30.2	▲4.4	17.9	26.6
卸売業	▲5.1	23.3	33.4	4.2	25.0	16.7	▲5.1	13.3	23.4
小売業	▲4.2	16.7	25.0	2.1	25.0	20.8	▲6.3	12.5	25.0
建設業	▲7.9	25.0	40.7	▲29.7	0.0	59.4	▲15.6	6.3	37.5
不動産業	▲2.6	26.4	31.6	10.5	31.6	10.6	▲5.3	10.5	21.1
運輸・倉庫業	▲25.0	4.2	54.2	8.3	37.5	20.9	▲12.5	12.5	37.5
サービス業	▲11.7	19.1	42.5	2.8	35.2	29.6	▲7.8	19.7	35.3